

はしど



平成30年11月30日
学校だより 第8号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木俊哉
<http://www.hashido-e.nerima-tyky.ed.jp/>

☆学校教育目標

考える子・思いやりのある子・たくましい子

「心の力」をつける

校長 青木俊哉

「おはようございま〜す！」

31人の1年生による元気なあいさつの声が、正門から響きます。門の中に1列に並んだ1年生の姿とその声の勢いに、一瞬たじろいだようにびっくりする上級生たちの姿、驚きつつもはにかみながら笑顔で横を通り過ぎる子、負けじと元気なあいさつを返す子…様々な顔が見られました。これは、先月22日の朝の光景です。

2学期の生活指導の目玉の一つとして取り組んできた「あいさつ運動」、9月6日の6年1組を皮切りに、毎週木曜の朝、クラスごと順番に正門に立ち、あいさつのリーダーとして声を出してきました。この日の1年1組でちょうどひと回りとなり、橋戸小の全児童がその務めを果たしたことになります。あいさつは、人と人を繋ぐ大切なコミュニケーション・ツールと言われます。この取組を通して学んだことを、学校の中だけでなく、家庭や地域でも実践できる子に育ててほしいと思います。

さて、今各学級の廊下には、「いじめ防止標語」が掲示されています。これは、「練馬区いじめ撲滅キャンペーン」の一環として、区内の公立小・中学校で取り組んでいるものです。この取組の素晴らしさは、“全員が取り組む”ということです。本校はもとより、全区立小・中学校が対象です。練馬の子供たちみんなが、いじめはよくないこと、いじめをなくそう…と真剣に考え、言葉に表すことの意味は大きいと考えられます。いじめや意地悪な気持ちは、誰の心の中にも芽生える可能性があり、“自分だけは絶対ない”“私は大丈夫”とは言い切れません。心のすき間、

相手との感覚の違いや友達との感情のずれ、ギャップ、微妙な連帯感…など様々な要素が絡み、何がきっかけで起こるかはわかりません。ですから、一人一人がいじめと向き合い、考える意味は大きいと言えます。

先月は、「クリーン運動」にも取り組みました。これは、クラスごとに日を決め、掃除の時間を利用して校内の落ち葉掃きなどを行います。普段の分担より広い場所を掃除し、学校をきれいにすることを通して、環境を大事にすることを学び、自分が集団や組織の一員として役に立っていることを実感できたことと思います。

12月4日から10日は人権週間です。1948年12月10日、国際連合第3回総会において世界人権宣言が採択されたことから、この日を人権デーと定め、国連の全加盟国および関係機関が人権活動を推進する取組を進めています。我が国でも、12月10日を最終日とする一週間を人権週間と定め、様々な催しを通して人権の重要性を広く国民に訴えてきています。練馬区でも、子供向け大人向けそれぞれに、講演や映画の集いが企画されています。(区のHPに紹介あり) “人が人として大切にされる世の中” “互いの違いを認め合う心を育み、思いやりの心やかかけがえのない命を大切に作る社会”を築いていけるよう、この機会に考えていきたいものです。

学力や体力と違い、「心の力」は数値で捉えることが難しいですが、だからこそ、学校・家庭・地域が一体となつて取り組み、力をつけていくことを願っています。